

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400054		
法人名	医療法人 宝山会		
事業所名(ユニット名)	グループホームこがうら		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2668番地の5		
自己評価作成日	平成28年9月12日	評価結果市町村受理日	平成29年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成28年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りは緑に囲まれて、閑静な住宅地にあり、認知症の利用者にとって家庭的な環境であり、安心して生活できる場所である。そして、この施設は温泉が出るので気持ち良く入浴ができ、利用者皆様でおやつを作ったり、ご近所の催し物に参加されたり、楽しく生き生きとした生活を送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地の中に立地し、温泉が出るように設備されている。隣接する和風の別館は日本庭園のある落ち着いたたたずまいで、菖蒲の花や梅の木等も植えられ、季節が感じられる環境である。また利用者・家族・地域住民との交流の場にも提供されていて、菖蒲鑑賞会やお雑祭り等の行事も行われている。法人の医療機関も隣接されていて、協力も得られ、運営の理念のもと、利用者が安心して生活できるように取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を常に事業所内に掲示しており、管理者と介護職員は利用者様が地域にとけてこんでいけるように支援を行っている。	利用者が安心して暮らせるように、管理者と職員は「笑顔」「安心」「個性」「地域との協同」のアイテムを組み入れた理念を掲げ、日々話し合い、浸透することで職員間で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事などに参加したり、当施設でのひな祭りや菖蒲の観賞会などの催しをして地域の方々にも参加を促して、楽しく交流をもって頂いたり、近所への外出の際にもお声掛けを頂いたりしています。	事業所が地域から孤立することなく、行事への参加や地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。散歩に出かけた時にはお互い声を掛け合う等、利用者が近隣の人たちと触れ合う機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	催し物を通じて地域のお年寄りなどが気軽に施設内に立ち寄られたり、楽しく談話されて認知症の理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々日常の様子や、当施設の取り組みを報告し、家族様や地域の代表者様、地域包括センターからご意見をいただき、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2か月ごとに開催、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合う等、サービスの質の向上に活かしている。会議結果は参加できなかった家族にも郵送で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただく事で、入居者の状況などに気をかけていただいたり、研修などの情報をいただくなどして、積極的に参加している。	市町村担当者とは連携を心がけ、入居相談や助言を得ている。運営推進会議にも参加していただくことで事業所の実情等を伝える機会でもあり、協力関係を築くような取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修だけでなく、近くで身体拘束についての研修や虐待についての研修等に積極的に参加し、知識を深め、玄関の施錠をせず散歩したり、裏の畑に出入りができるようにしたり取り組んでいる。	利用者の人権を守ることを基本として、内部研修やミーティングを行い、身体拘束をしないケアについて知識を深めている。玄関の施錠は夜間のみとし、日中は利用者が自由に出入りができるように安全に配慮した取り組みを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通じて、虐待が起らないように、職員の意識を高め、ストレスをためないように十分に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに積極的に参加し、職員共々理解を深めようと努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学をしていただき、利用者様やその家族様の疑問に思ったことを聞き、その上で契約を行っている。状態が悪化した場合などの契約の締結なども十分に説明、相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様には、面会時に会話や手紙、電話にて状況の報告、その際に意見や要望に反映するようにしている。	家族には手紙や電話で状況報告を行い、面会時や利用料の支払い時に意見や要望を引き出す場面を作っている。利用者には職員や町の介護相談員が日常の会話から意見や要望を聞き出し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員による意見や提案をミーティングの際に話し合い運営に活かせるようにしている。	代表者や管理者は現場の職員の意見や提案を十分に聞く機会を設けている。提案や意見はミーティングで話し合い、運営や管理に活かせるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年休やリフト休制度が良く活かされており、職員個人のスキルアップのための協力体制や資格などの手当でも設けており、職員の意欲や向上心を持っていけるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を積極的に参加し、広く知識を得ることで、職員間で知りえた知識を共有し合えるようにしてあり、また外部研修においても職員個人にあった研修にも積極的に参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームこがうらと言う事が広く認識され、見学や介護をしているか説明させていただいている。また、外部研修などで交流の機会をもてるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、ご本人様の事を紹介者・家族様から状況を聞き、面接の際に出来る限りの把握をしてから行っている。また、ご本人様と顔なじみになれるよう担当者を決め身の回りや健康面について把握が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には安心していただけるよう、要望等に傾聴し、家族様の精神的ケアを行い、ご本人様との良い関係が続けられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には、ご本人様・家族様が必要としているサービスを、また施設として必要と思われるサービスを提供し支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には、野菜作りや保存食の作り方などを、アドバイスをいただき一緒に作れる場合は一緒に作業をし、楽しく生活を送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族様との関係が続けていけるように、行事事などにもお声がけをし来所しやすい環境に努めている。体調に変化がある場合はご家族様にご連絡をさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様と馴染みがある方に会いたいやお見舞いなどに行きたいというご要望があれば、できる限り外出できるように支援を行っている。	電話や手紙の支援、家族に会う支援等、本人がこれまで大切にしていた関係が途切れないように、出来る限り要望に応える支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の施設であるので、全員顔なじみであり、良い関係を保っている。リハビリなどには励ましなどの声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご本人様の状態がどうか家族様から聞いたり相談を受けたり、面会に行かせてもらうなどをさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様や家族様からの聞き取りより得た生活歴や思いと希望の中から、本人にとって何がよいか職員全員で把握に努めている。	本人本位のケアが提供できるように担当制を取り入れ支援している。ケアマネージャーを中心に本人や家族から聞き取り、職員全員が利用者の思いや意向を共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に家族様から今までの暮らしの状況収集をして、またご本人様と触れることにより会話から引き出せるようにし、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人それぞれの残存機能を把握し、出来る限りその能力が保てるよう、日々少しの努力を楽しみとして、個々にあった過ごし方ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のミーティングを行い、職員から利用者様の状況の把握をし、家族様のご要望により意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画作成にあたっては、利用者の視点に立ち、家族、本人をよく知る関係者から意見を聞いて状況を把握し、母体法人の医療関係者からの意見も取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の個別記録を担当者や当日関わった職員が記入し、職員間で情報の共有し、介護計画の見直しなどに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じる本人様・家族様のご要望に柔軟に対応し、臨機応変な支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関連施設での訪問、地区の子供会の催しに参加させていただいている。また、地域の散髪屋や商店の方等馴染みを作ることで、当施設の催し物に参加してもらい、楽しいひとときを過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当病院で受診し主治医も当病院でお願いしている。だが、以前よりのかかりつけ医や希望の医療機関があれば、職員付き添いのもと受診している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応し、普段の様子や変化を伝えるようにしている。受診の報告は書面に記録し、職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2度の看護師の訪問があり、入居者様の健康状態の把握や相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携しているので、入退院もスムーズであり、入居者様やその家族様も安心して任せられ、病院との交流もあり職員も良い関係で情報交換をしてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には、提携病院と連携しているので十分に話し合いができる体制をとっている。また、施設で出来る事に限界があり、本人・家族・職員にとっては受け入れ先があるという安心感が得られる。	重度化した場合や終末期の看取りについては、法人の医療機関が受け皿となる体制をとっている。入所時に十分に話合うことで、本人・家族の安心を得て、納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、急変時の対応マニュアルがあり、それに基づいて連携の病院へ慌てることなく連絡し初期対応に応じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練を行い、避難訓練を行っている。機会がある時には、災害時などの避難方法の話し合いをしている。災害時には備蓄等を備えている。	年に2回、消防署の立会いのもと、昼夜を想定した火災訓練を行っている。法人の医療機関との連携で協力が得られる体制であり、予備の毛布や食品の備蓄も備えている。	災害時の具体的な避難策を検討し、いざというときに慌てずに確実な避難誘導ができるように避難場所に通じる環境整備に取り組んでいけることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の性格を把握し、それぞれの人格を尊重しプライバシーの保護に努めながら接している。	一人一人の人格を尊重し、プライバシーの確保を徹底している。援助が必要な時も、さりげないケアを心がけ、言葉かけに配慮している。個人情報の取り扱いについても、責任ある管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話などで要望等を読み取り、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体で一人一人の個性に合わせ、日々の暮らしをその人らしい暮らしができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みに応じて、身だしなみを決めており、外出時には季節や気温に応じて利用者様と決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査や季節の献立を考えて、一緒に作ったり、下準備や食後の後片付けなどのお手伝いをしてもらっている。	利用者と一緒に作った野菜や裏山の栗・柿等の旬の食材を取り入れた献立を考えている。下準備のお手伝いやおやつ作り、らっきょう漬け等、利用者の力を活かし、職員と一緒に食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた献立を考え、常に摂取量を把握し、水分が少なければ好みの飲み物や寒天などを提供し、摂取していただけるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、声掛けをし一人では難しい場合は洗面所まで誘導し介助させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常の個別の排泄パターンを把握し、誘導している。また、自己で出来る方については声掛けをして排泄出来るように支援している。	排泄表をもとに個別の排泄パターンを把握している。また、表情を観察することで、早めに誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者様については、声掛けをしながら、水分補給や食物繊維の多い食物を摂ってもらっている。あと、服薬による対応もしているが、状態をみながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別入浴で、温泉でもありその都度温泉を入れ替えて気持ち良くゆったりと入っていたり入浴拒否の方にも声掛け誘導することで個々に応じた支援ができています。体調に応じての入浴も可能である。	温泉を利用し、一人ひとりの体調に応じた入浴の支援をしている。入浴拒否の方にも声掛け誘導することで個々に応じた支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムを尊重しながら、昼間はリハビリやレクなどを行い、多少の休息をとり夜間にも十分に休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の薬について、どのような薬か周知徹底し管理している。また、変更があった場合などの服薬後の変化にも気を配っている。誤薬対応で、必ず名前を記載するなどの事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を生かした役割、楽しみ事を支援する事で、メリハリのある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の希望に沿って庭に出たり、常に外気に当たりしている。個別での外出希望は支援が出来るとこまで行っている。季節により全員できる外出計画をしている。	個人の希望に添って、出来る限り外出の支援をしている。外食やお弁当をもって出かける等、季節ごとに年間の外出計画もあり、積極的に外出を楽しめるように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、小遣い程度は持っていたいただき、買い物やお見舞いなどの時に支払いを見守り確認しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で携帯電話を所持して、職員に尋ねながら家族にかけたり、また手紙を書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでは常に清潔を保ち、安全に過ごせるようにし、季節が感じられる物で演出したりして落ち着いて過ごせる空間にしています。	玄関を入ると共用のスペースでは大きなソファがあり、利用者がゆったりと腰を掛けて過ごされている。利用者が飾った季節の生け花や、家庭的なキッチンでの調理等、五感を刺激、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースにソファを置いて、自由に座れるようその日に応じて好きな場所で過ごされています。食事時は、落ちついてお召し上がりいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持ち込んでいただき、安全に配慮した居室空間を作り居心地よく過ごしていただいています。	一人ひとりの居室は安全に配慮されていて、使い慣れた冷蔵庫や家具等も配置されている。馴染みの物も持ち込まれ、居心地よく過ごされるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできることを理解し、自分にできる事はしていただき、その人に応じて安全な行動が出来るように支援している。		